

發特高秘第六三九号

昭和二十年十月一日

石川縣警言察部長



中務省警保局保安課長殿

小松航空隊基地へノ米ソ航空工廠

進駐情報ニ関スル件

笠呂下小松航空工廠基地ハ美保基地ト
共ニ日本海方面ニ於ケル米ソ側基地ト
トシテ使用セラル、コトニ決定シタル
ニレテ右ニ関スル

舞鶴鎮守府第三航空工廠

補給隊長

高木少佐

石川縣

ハ九記ノ如キ談片ヲ撰ニ居候條
此段及報告候也

記

一昨日上馬ヨリ

今田小松航空隊基地ハ日本海ニ於ケル
米ソ側ノ基地トシテ美保基地ト共
ニ使用サレルコトニナツタカラ至急基地
内ヲ整備セヨ

トノ指令カアツタノテ市並ニ警口寮吉田島ニ御
殿ヒシテ早速清掃整備ニ概リタイト鬼
ツテスル。進駐ノ時期ハ判明セタイ
大作九月下旬頃ニナルノテナイカト思フ
尚彼等ノ進駐ニ伴ツテ海軍トシテハ保安隊
ナルモノヲ組織シ進駐区域ノ治安ニ任ズ

ルコトナリ私共ニ対シテモ保安隊編入ノ
 後メ後レトノ命令カアツタカ結局陸軍ノ
 実係ノ憲兵ノ外ニ保安隊カ増強セラ
 レルコトニナツタトノコトアル
 私トシテハ陸海軍ノハ少シモ^換ラヌモノト
 思フテ存タカ斯クシテ海軍テハ保安
 隊カアツテ武装レ陸軍テハ憲兵カ武
 装スルノテアルカラ^カ將來ノ陸海軍
 ノ前身トナルモノト思フ而シテ保安隊
 ハ進駐部隊ト民カ自トニ関着カ起ルト
 其ノ中ニ立テ解決スルノ知サラテ久
 尚今自本部ハ出ル極ニ言フテ来テ存
 ルカラ詳ク^テハ^ハ結果ニ依テ判
 ルト思フ

斯極ニ先方ヲハ 我方ノ要求ヲ大々守レテ
 告ルラレトイ 夫レハ 破洋一モ 国力カ非
 帝ニ弱ク告ルト 原子爆彈一カモ
 一個レカナイ 弱氣カアルノト
 鬼カ 今更極須加員 灣ニ聯合軍
 入ツテ来々時 我方ノ軍隊カ抵抗レ
 タラレトイハ先方ハ少シモ 應戰レナカ
 ヲトテス

728

大

發特四秘第六六九號

昭和二十年十月一日

石川縣知事 平井

內務大臣 山崎 巖殿

東海北陸地方總監殿

東亞振興會金澤支部解散ニ關スル件

東亞振興會金澤支部ニ於テハ創設以來其ノ事業トシテ留日學生

ノ教育並輔導ノ爲メ

管下金澤市蛤坂新道二ノ三

金澤學寮ニ於テ

百 川 系

課 安 保
20.10. 9火
第 号

ヲ經營シ來リタル處大東亞戰爭終結ニ伴フ國際情勢ノ急變ニ因リ
右支部ヲ解散シ今後金澤學寮ハ日華協會ノ事業トシテ經營ヲ爲ス
コトニ決定ヲ見タルガ其ノ間ノ経緯左記ノ通りニ有之候條
右及申報候也

記

本月二十四日午后四時

日華協會本部

常任理事（豫備）車少將

太田善三

來澤シ金澤學寮ニ至リ施設其他ニ付調査ヲ爲シ東亞振興會並澤支
部役員四名寮生六名ノ參集ヲ求メ二、三懇談ノ後更ニ同

金澤市十間町

三竹屋旅館



ニ於テ

木田 理 昌

東亞振興會金澤支部

支部長代理 小竹 芳 朗

同 理 昌 吉田 長 久

同 理 昌 小森 重 作

同 理 昌 今井 嘉 助

外二名出席大田理昌ヨリハ

東亞振興會ノ日華協會ニ併合ノ理由並之ニ伴フ金澤支部ノ解散

ニ付キ説明アリ更ニ日華協會ニ對シ協力方ヲ要請ス

終ツテ

東亞振興會金澤支部解散ノ件

2 金澤學寮補助金交付ノ件

(金額 五百圓)

3 日華協會ニ移管サレタル金澤學寮ノ寮長選任ノ件

以上三件ヲ協議シ午後九時散解セリ

本 議 決

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

議 決 文 字

電報報訳

外事課別室

昭和十年八月三日三時受理

保安課長

西井忠太郎

發

大臣

宛

昨上夜閣下アハラ飛行場ニ朝鮮機ヨリ飛来セル

友會井一井マリ塔塔職員一談ニヨリハ復ノセシノ機(何)ニ

大長領ヲ指令シ書一夜ヲ向ハス機行列燈打行列

ヲ行ヒテルクメ和ムハ衣會且ニ又陸上機機ナリ

海軍省考迄ニ

要目

戰鬥隊転移後、指示ヲ乞フ
方針、指示ヲ乞フ

電報 報 訳

外事課別室

昭和

八年八月三日 四時受理

保安課長

事務官

青原重太郎宛

福井縣特高課長 發

本月十日 福井地区司令部ヨリ 閣下

福井新聞社ニ對シ 新聞報導關係ヲ

一丸トスル 福井地区報道義務戰鬥隊編成準備

備方針指示アリ 目下福井新聞社ニ於テハ之カ

編成準備中ナルガ 戰鬥隊転移後、指示

方針ニ付 指示ヲ乞フ

(以上)

毛報譯 八月二十日

通信文

福井特知事 敬

内務大臣宛

一 昨十日十時頃、吾下(大領郡高浜町)上空ニ飛来
 セル友軍機重爆ニ機ニ国民諸氏ニ告ル帝國、海軍航
 空隊司令ト題シ、毒魔ノ巧姪トシ謀略ニ翻弄ナシ必勝
 一 信念ヲ失ヒタリ、重臣、閣僚トモカ上聖明ヲ覆ヒ奉リ
 下国民才欺瞞愚弄シ、遂ニ前古未曾有ノ詭勅ヲ拜
 スニ到シリ、日本ノ天皇陛下ニ絶對ノ場方ナリ、天皇陛下ノ軍
 人ニ絶對降伏ナシ、我々ノ航空隊員ハ必勝ノ確信アリ

今コントガニ一億總躰起ノ時トリト一越告一伝畢

(ローン半紙白ツ切トラレヤ版ぶり)才約五之百

枚撒布一モリ 部己ニ及ギンクニ及響相当アリ 括

導取係リ中ナリ)

以上

特高秘第一。二一號

昭和二十年九月二十八日

福井縣知事

(警察部長)

内務大臣殿

近畿地方總監殿

國家主義團體等、動靜ニ

關スル件

國家主義團體並ニ全分子、動靜ニ関シテハ
御内示、次第ニ有之銳意注意中ニシテハ
ニ於テ國家主義團體トシテハ

福井地方裁判所檢事局

大日本一新会分煙呂福井一新会

东亚聯盟同志会福井縣支部

天関お開期成会福井支准下

ノ三團休マルノミニシテ而カモ結社トシテ、許可
ヲ受ケ居ルハ福井一新会ノミニテ同会ハ主幹者
タル長谷部富太郎ヲ忠ニ相當活發ナル
運動ヲ展開レシマリタルモ終戦ニ伴フ情勢
ノ変化ニ依リ本部ノ動靜等ヲ注視レ居リ
タル処今般本部ヨリ解散セル旨ノ通知ニ
接レタルヲ以テ一應本部ト行動ヲ共ニスル事
トレ去ルニ十四日別添ノ如ク解散届ヲ提出
沈黙レ居リ次ニ东亚聯盟同志会福井縣
支部ニ在リテハ本年ニ入りテヨリ主幹者タル

上崎隼雄ヲ中心ニ會員ノ獲得ニ極本レ
 當初三十余名ニ過ギザリレモ會員ヲ終戦直前
 ニハ二百余名(自給)ニ増加レ相當注意スベキモ
 ノアリタルモ終戦ニ伴ヒ之亦本部並ニ石原將軍
 ノ動向ヲ注視シ之等ニ準ゼルトノ態度ヲ持シ
 居ル狀況ニテ格別特異ニシテ更ニ天岡打崩
 期成会 福井支進ハ僅カ數名ノ會員アル
 ノミニテ中心人物タル中谷傳ハ單ニ情勢ノ
 変化ヲ憤慨シ居ル程度ニテ之亦何等特
 異ニシキ狀者ナリ
 以上ノ如ク佐官下ニ於テハ國家主義運動ハ比較的
 低調ナリレニ加フルニ福井市ノ戦災ニ依リ中心人
 物ハ勿論會員ノ大部分ハ何レモ戦災者トナリ

為ニ住居ヲ郡部ニ転ズルノ已ム無キニ至リタル
外日常ノ生活スラ困難トナリタルモノアリテ意識
分子ノ僅少及終戦ニ伴フ社会情勢カノ変化
ト相俟ツテ目下ノ処況點ヲ守リ居リテ見ル
下キ動向ナシ

然レ共官下ニハ皇廷翼賛青年聯盟関係ノ
豊島慶輔及今人ノ兄分タル大村修三等ノ
要人注意人物アル外之等ヲ訪問スル同系分子
等ノ來信モアリ前者ハ日義ニ在東京ノ三上卓一ノ
招電ニ依リ後者亦私用名下ニ更々上京(電報
申報稿)セルモノニテ之等ヲ總ル動向コソ相當注
意ノ要アリト思料セラルニ付可記団体中一
於ケル意識分子ノ動向ト共一覽意視奏小

246

由偵中二有之
右及申報候也

解散御届

福井一新會



右大日本一新會、勤向ニ導據ニ解散致度候條此
致及御届候也

昭和二十年九月二十四日

福井市宝永上所百五番地

福井一新會主幹長谷部富太郎



山崎大臣山崎可 巖殿

解散 御届

福井一新會

右大日本一新會ノ勤向ニ準據シ解散致度候條此
致及御届候也

昭和二十年九月二十四日

福井市宝永上町百五番地

福井一新會主幹長谷部富太郎



山崎大塚山崎

殿 殿

特秘二發第二〇號

昭和二十年八月六日

大阪府知事 新居善太郎

(警察局長)

内務大臣 安倍源基殿

近畿地方總監 安井英二殿

(關係警察署長殿)

國柱團街頭運動ニ関スル件

(對號 特秘二發第二〇五號)

大阪市天王寺區 眞法院町八八

國柱團 總本部

(總務會長 田邊 納)

249

右團體ニ在リテハ對号既報、如ク緊急幹部會ニ於テ
決定セル全國突擊隊青年分子ヲ以テ國民士氣昂揚、
辻說法隊ヲ組織シ本月七日ヨリ之ヲ實行ニ移スコト
トシタルヲ以テ今說法要旨ヲ提出セシメ當廳ニ於テ事
前檢閲ヲ施スト共ニ

(1) 對ソ外交方針ヲ批判スルガ如キ事項

(2) 政府施策ヲ誹謗スルガ如キ事項

(3) 軍機ニ屬スル事項

(4) 軍官民離間ノ虞アル事項

等、言動無キ様嚴重指導ノ上之ヲ認メタルガ別添
該原稿(棒線ハ削除)及辻說法ノ場所等左記ノ通
有之

右及申(通)報候也

可
追而管下各警察署長ニ在リテハ経偉了知、上
取締上遺憾ナキヲ期セラルベシ

記

一、辻説法者名

突撃隊總司令

参謀長

参謀

隊員

村田 一郎
森山 泰仲
良原 正雄
堀 賢吾
今村 忠雄
金井 秀雄

二期
問

自昭和二十年八月七日

至八月十六日

十日間

(一)

今から千幾百年前日蓮ハ関東の地に於て是説法を爲し
 時の鎌倉幕府に蒙古來の警告を與へたのであります
 昭和の今日吾々國柱團同志ハ斯の如く將に街頭に立
 ちて是説法をやらんとして居るのであります勿論あり
 當時二十万の蒙古軍が博多灣ニ侵攻した事は確に
 一大國難であつたに遠ひないが然し今日は敵米英は
 空に海に陸に我が本土を襲はんとして居る否空と海
 とは爆撃艦砲射撃等にて日夜我々を悩まして居る
 全く残されたるは陸のみにて之とも何時何處に敵は
 上陸するのも知れない、今や日本人一億の心は此の敵の上
 陸と言ふ一事に可成の神経を集注して居るのであり
 ます斯る重大危局に起ちて吾等は何を言はんとするか
 夫れは思想戦の緊迫化であります

古今東西を通じて戦争に於て戦意を失はざれば必ず
勝つのであります

(2) 盟邦ドイツは戦に負けたりでなく戦意を失ったのであり
ます。あれ迄ヒットラー大統領が最後の一兵まで戦ふ様激
勵したにも不拘戦意を失って一戦線に於ける百萬の兵が
武器を捨てたのであります

ドイツの断末魔は實に哀れであります。日本人には
全く其の最後の態度に至っては解釈に苦しむのであ
ります。然しもうドイツには國內に於てある總統の
遭難頃より親英派の活動が旺んにして英國からまん
まと引掛られたのであります。恐るべきは敵の謀略であ
る。武力に勝つていてもドイツは二度迄も謀略の爲國を
亡ぼしたのであります。

英米は殊に思想宣傳の点に於ては遙に巧で到底日本人の及ぶ處にありませぬ最近空がらの思想戦で旺んにビラを撒つて居ます斯んな馬鹿らしい手に乘るものかと思ひをがらつて

(3) 先志の手にまんまと引掛るのてあります戦争が我々に不利な場合たと一層敵の謀略に陥り易い。先日は福澤諭吉、尾崎學堂等の意見を切貫いて『自由』を擁護してゐました、勿論吾々はこのららの先輩が傳へた文明開化に大に災せられてゐる。恐らく明治より大正昭和と引續いて米國が日本にとつた謀略戦術には實に戦慄すべきものがあります。所謂三エス主義映画、競技、風俗之等の三つを介して日本を墮落せしめる敵の謀略、男女同權サテハ産兒制限、娼婦出でて時の存務省はサンガー夫人の講演を許したのであります。日本では子宮と申しますが西洋は夫婦主義で澤山な子持は家庭の平和を破ると言ふ個人主義思想から出

發して居るのであります。此の恐るべき思想を以つて日本の親子主義の家庭を根本から覆さんとしたのであります。

(4) ホーリウッドを『聖域』と譯し映画俳優を女神の如く慕つて日本の青年男女を墮落せしめ彼等の流行を真似て國民にダンス横行し男女の風紀を亂したのであります。學生は野球蹴球等で殆んど勉強する時を持たない。全く滿洲事變の起る年頃迄は世を羨望して英米化し銀座街頭、心齋橋に暫し足を留めなば、之等は恰も米國の植民地の如き觀を呈して居たのであります。斯る敵謀略には全く温床の地である社會に我々は生きて居たのであるから思想戦には重大意義を持つてあります。西洋崇拜も日本人は正直だから危険千万です。例へば商業學校のマークに蛇の巻いたギリシヤの商神のマークがありますが、あの商神は實は泥棒の神様であります。日本國中可なり之のマークの商業

學教が多つと思ふ事、茲に至つては西洋崇拜もこつけいびでありま
 す。私共は今日過去を振り返へれば種々よこしまな道を歩いて来
 たのであります。過去は過去に葬り去つて眼前の問題を考へて
 はなつぬ。實に日本人は堂々たるもので戦場に於ける將軍の態
 度は外國のそれと比較して問題にならぬ。先日も沖繩で牛島
 大將は辞世の歌に

秋待たで枯れゆく島の青草は

皇國の空によみがえらなむ

と歌は水ました。死の寸前、詩を作るとか、一歌さうたふ、この境地は

倒底欧米人には理解出来ないのであります。天皇に一切を捧

げまつるその心境こそ神に近いものであります。我々が敵英米撃

滅に一切を捧げる時そこに神機が倒来するのであります。神風は

決して棚からホタ餅式に落ちつゝ来るのではない。億火玉と落ちて

敵粉碎に挺身するその息吹が神風となつて吹いて来るものであり
ます。私共は長い時間、理屈をいふ時を待ちません。聴衆の皆さん
どうか足もとを気を付けて、不平や、不足を云つてゐるといつ謀略の
あの手、この手にひつかゝるか知りません。

神國不滅の大信念のもとに一億总体當りを以つて必勝の目標に
向つて猛進させよう。國柱団は最近発足して凡ゆる面に於て決戦
行動を取り度いと思ひます。皆さん、内吾々といふ脈を通じて憂國の
血湧き肉踊る方が御座居ましたら是非即時御入會を希望致
します。

平
氏
日

菫

敬

文

人

女

出

数

高

一大型、小型、取交って日夜の別なく日本全土を空襲してゐ
ます。これは次の決戦段階に対する索制の意味で神経戦
が可なり手傳つてゐます。もう吾々の神経も可成太くなりまし
た。斯くまで災害を受け、悠々自適焦土にかぼちやでも作
つて居る、なんと素晴らしい神経でありませんか。日本人はいざと
いふ場合にたると達観するのではありません。

この心構えがあつてこそよく貧苦耐乏が出来るのであります。
然し我々は決して思想戦には油断はならぬ。ナチスドイツの
最後を見て私共が武力に勝つても謀略のため國は亡ぶもの
だと感じましたのであります。戦争が熾烈になれば食糧問題が深
刻化する。そこに國民の厭戦思想の温床が出来るのであります。
昔から戦に腹が減つてはともならぬと申しますが、兵士の生命
を積極的に守るは銃、消極的に養ふは食糧であります。敵が

上陸作戦すれば食糧は一層の緊迫を告げるかも知れません。斯る時魔風の如く流言蜚語が乱舞するのでもあります。先の欧州戦争に於て帝政ロシアを内部崩壊せしめた、スターリンと其一党はよくその呼吸を知つてゐるのでモスコが落城の一步前まで来て少しも乱れる事なく市民がよく艱難辛苦孤城を守り貫いたこそドイツに勝つ事が出来たのです。ところがドイツは戦争には二度迄も勝つたが謀略には負ける。吾々日本人は昔から直く正しき、明るき、心を尊んだだけ正直過ぎるので敵の謀略にひつかゝるのであります。又米英はこの謀略の臭に於ては実に巧なもので芝居も大がかりです。国際同盟などが日本商品の南方進出を阻止せんがため少年工の労働禁止を要請すると表面の人道主義の看板を真に受けて即座に賛成して終う。支那に於ても英米のため常にしてやられるのであります。『最近日本に降服状を發表

しました。が、世に日本と日本。新聞紙が記載

がそんな事を考へる必要はない。然しこの時局に於ても軍需品
の生産は必要であるのであります。戦つてゐる敵がなると云つて来やう
聞をやつて利得をせんとする者があります。聞こそ國難を乗り切
るに國民の病となつてゐるのであります。利潤は國境をこえて利潤の

自由を叫ぶ英米資本主義の謀略は之も実は惚ろ惚ろのものです。

また、英國政府は日本は常に蔣介石と日本を敵にないといふ
の背後の英國を打倒する主張するも日本人の資本家が英

蘭銀行に預金をする資本家を蔣介石に貸した。打倒するべきは

日本人自らではないかと驕言をたふします。全く日本人は果

然と云ふを得ない。金持は利潤が唯一の目的です。これは社會

主義の國家主義。金持の資本家を飾る心の忠告です。

また、大阪を代表商部として存在し、大阪商人、関西人の余り

香川から名を聞くと事久し。真実の保証は出来ませんが大谷光
瑞師が関西の実業家の臣類の集れる席で大阪にゆくとヤ人は
佐々木さん佐々木餘右がなすと暗に関西の実業家と云々諷刺
したまいます。全くこの利潤を目的とする一團は実に戦争遂行に於
て大障害物があつてあります。然し今日に於て既に過去の大阪は
がたがたです。『焦土と化した廃墟の中から新らしき大阪は今將に産
ルんとして陣痛の悩みにあるのであります。大阪こそ今後は大東亞
共榮圏交易の中心として新らしき尚道のもとに発足しなくてはな
らぬ。今や敵英米は日本を抹殺せんとしてゐるのであります。三千年
の光輝ある一戸穴を根本から覆えさんとしてゐる。吾々一代の戦争でな
く祖先のため又子々孫々のため吾等は此の戦に勝ち抜かなくてはなら
ぬ。全く食ふか食はれるかの戦争であります。琉球に行きますとカラ
スが石の上にとまってるるそつてす。そこをハブといふ毒蛇がしのびよつて

256
ドグロを巻き首を高く上げて下顎で一撃するその瞬間カラスは
敏速に體を替りて毒蛇は石の上に全身の力を以て我身我頭を
石の上に叩きつけて粉碎される。その力をカラスは大きく一聲あげて
友を呼びハブの珍肉を喰うそうぞす。敵米は恰もこの琉球のハブ
の如きもので我が勇敢にして沈着なる將兵は今や敵の猛撃に会
はんとしてゐるのであります。この危機一髪に神機を捕捉するが皇
軍の作戦ではないかと思ひます。實に大決戦の寸前に立ちて我
等はなにか云はんや。一億體當りを以て敵米英を粉砕すべき
は今日であります。諸君どうか一際を戦争一本に切り替へてこの
意義ある聖戦に勝ち抜こうではありませんか。
最後に勤皇家鈴木重胤の歌をうたつて

天皇の御指となりて死ぬる身の

心は常に樂しかりける

副

特秘二發第二〇號

昭和二十年八月六日

大阪府知事 新居善太郎

(警察局長)

内務大臣 安倍源基殿

近畿地方總監 安井英二殿

(關係警察署長殿)

國柱團街頭運動ニ関スル件

(對號 特秘二發第二〇五號)

大阪市天王寺區真法院町八八

國柱團總本部

(總務會長 田邊 納)

217

年 月 日

第

號

頁

(總務會長

田

邊

納)

右團體ニ在リテハ對号既報、如ク緊急幹部會ニ於テ
決定セル全國突擊隊青年分子ヲ以テ國民士氣昂揚ノ
辻說法隊ヲ組織シ本月七日ヨリ之ヲ實行ニ移スコト
トシタルヲ以テ今說法要旨ヲ提出セシメ當廳ニ於テ事
前檢閲ヲ施スト共ニ

(1) 對ソ外交方針ヲ批判スルガ如キ事項

(2) 政府施策ヲ誹謗スルガ如キ事項

(3) 軍機ニ屬スル事項

(4) 軍官民離間ノ虞アル事項

等、言動無キ様嚴重指導ノ上之ヲ認メタルガ別添
該原稿(棒線ハ削除)及辻說法ノ場所等左記ノ通
有之

右及申(通)報候也

可
追而管下各警察署長ニ在リテハ経偉了知、上
取締上遺憾ナキヲ期セラルベシ

記

一辻説法者名

突撃隊總司令

参謀長

参謀員

隊員

〃〃

二期
間

金	今	堀	良	森	村
井	村		原	山	田
秀	忠	賢	正	泰	一
雄	雄	吾	雄	仲	郎

自昭和二十年八月七日
至八月十六日
十日間

年
日

誌

東京警察大学警察学研究所

三、場

所

- (一) 上六市電交叉点附近
- (二) 阿倍野橋近畿日鉄前廣場附近
- (三) 難波南海駅附近
- (四) 阪急前廣場附近

平
日
日
誌
費
用
人
支
出
類
高

(一) 今から千幾百年前日蓮ハ関東の地に於て是説法を爲し
 時の鎌倉幕府に蒙古來の警告を與へたのであります
 昭和の今日吾々國柱團同志ハ斯の如く將に街頭に立
 ちて是説法をやらんとして居るのであります勿論あり
 當時二十万の蒙古軍が博多灣ニ侵攻した事は確に
 一大國難であつたに遠ひないが然し今日は敵米英は
 空に海に陸に我が本土を襲はんとして居る否空と海
 とは爆撃艦砲射撃等に於て日夜我々を悩まして居る
 全く残されたるは陸のみにて之とて何時何處に敵は
 上陸するかも知れない、今日日本人一億の心は此の敵の上
 陸と言ふ一事に可成の神経を集注して居るのであり
 ます斯る重大危局に起ちて吾等は何を言はんとするか
 夫には思想戦の緊迫化であります

古今東西を通じて戦争に於て戦意を失はざれば必ず
勝つのであります

(2) 盟邦ドイツは戦に負けただけでなく戦意を失ったのであり
ます。あれ迄ヒットラー大統領が最後の一兵まで戦ふ様激
勵したにも不拘戦意を失つて一戦線に於ける百萬の兵が
武器を捨てたのであります

ドイツの断末魔は實に哀れであります。日本人には
全く其の最後の態度に至つては解釈に苦しむのであ
ります。然しもうドイツには國內に於てある總統の
遭難頃より親英派の活動が旺人にして英國からまん
まと引掛られたのであります。恐るべきは敵の謀略であ
る。武功に勝つておいてもドイツは二度迄お謀略の爲國を
七ぼしたのであります。

360
英米は殊に思想宣傳の点に於ては遙に巧で到底日本人の及ぶ處にわありません最近空からの思想戦で旺んにビラを撒いて居ます斯んな馬鹿らしい手に乗るものかと思ひながらついで

(3) 先方の手にまんまと引掛るのであります戦争が我々に不利な

場合だと一層敵の謀略に陥り易い。先日は福澤諭吉、尾崎學

堂等の意見を切貫いて『自由』を擁護してゐました、勿論吾々

はこれらの先輩が傳へた文明開化に大に災せられてゐる。恐らく

明治より大正、昭和と引續いて米國が日本にとつた謀略戰術には

實に戰慄すべきものがあります。所謂三エス主義映画、競技、風俗

之等の三つを介して日本を墮落せしめる敵の謀略、男女同權を

テハ達見制限は持出して時の内務省はサンガー夫人の講演を

許したのではありません。日本でも子室と申しますが西洋は夫婦主義

で澤山な子持は家庭の平和を破ると言ふ個人主義思想から出

發して居るのであります。此の恐るべき思想心を以つて日本の親子主義の家庭を根本から覆さんとしたのであります。

(4) ホーリウッドを『聖林』と譯し映画俳優を女神の如く慕つて日本の青年男女を墮落せしめ彼等の流行を真似て國民にダンス流行し男女の風紀を乱したのであります。學生は野球蹴球等で死ぬと勉強する時を持たない。全く滿洲事變の起る年頃迄は世を攀がて英米化し銀座街頭、心齋橋に暫し足を留めなば、之等は恰も米國の植民地の如き視て呈して居るのであります。斯る敵謀路には全く温床の地である社會に我々は生きて居たのであるから思想戦には重大意義を持つてあります。西洋崇拜も日本人は正直だから危険千万です。例へば商業學校のマークに蛇の美しきギリシヤの商神のマークがありますが、あの商神は實は泥棒の神様であります。日本國中可なり之のマークの商業

學校が多と思ふ事茲に至つては西洋崇拜もこつけいでありま
 す。私共は今日過去を振り返へれば種々よこしまな道を歩いて来
 たのでありますが。過去は過去に葬り去つて眼前の問題を考へて
 はたしめ。実に日本人は堂々たるもので戦場に於ける將軍の態
 度は外國のそれと比較して問題にならぬ。先日も沖繩で牛島
 大將は辞世の歌に

秋待たで枯れゆく島の青草は

皇國の空によみがえらなむ

と歌は水ました。死の寸前、詩を作るとか、一歌さうたふ、この境地は
 到底欧米人には理解出来ないのであります。

天皇に一切を捧

げまつるその心境こそ神に近いものであります。我々が敵英米撃
 滅に一切を捧げる時そこに神機が倒来するのであります。神風は
 決して棚からホタ餅式で落ち、来るのではない。億大玉と云つて

敵粉碎に挺身するその息吹が神風と成って吹いて来るあり
ます。私共は長い時間、理屈をいふ時を待ちません。聴衆の皆さん
どうか足もとを気を付けて、不平や不足を云ってゐるといつ謀略の
あの手、この手にひっかかるか知りません。

神國不滅の大信念のもとに一億總体當りまで以って必勝の目標に
向つて猛進しませう。國柱団は最近発足して凡ゆる面に於て決戦
行動を取り度いと思ひます。皆さんの内吾々を一脈を通して憂國の
血湧き肉踊る方が御座居ましたら是非即時御入會を希望致
します。

平
日
日
誌
取
寄
入
文
書
数
誌

一、大型・小型・取交って日夜の別なく日本全土を空襲してゐます。これは次の決戦段階に對する索制の意味で神経戦が可なり手傳つてゐます。もう吾々の神経も可成太くなりまして、斯くまで災害を受け、悠々自適焦土にかぼちやでも作つて居る、なんと素晴しい神経でゐりませんか。日本人はいざといふ場合になると達観するのであります。

この心構えがあつてこそよく貪苦耐乏が出来るのであります。然し我々は決して思想戦には油断はならぬ。ナチスドイツの最後を見て私共が武力に勝つても謀略のため國は亡ぶものだと思つたのであります。戦争が熾烈に成れば食糧問題が深刻化する。そこで國民の厭戦思想の温床が出来るのであります。昔から戦に腹が減つてはともならぬと申しますが、兵士の生命を積極的に守るは銃、消極的に養ふは食糧であります。敵が

上陸作戦すれば食糧は一層の緊迫を告げるかも知れません。斯る時魔風の如く流言蜚語が乱舞するものであります。先の欧州戦争に於て帝政ロシアを内部崩壊せしめた、スターリンと其一党はよくその呼吸を知つてゐるのでモスコが落城の一步前まで来て少しも乱れる事なく市民がよく艱難辛苦孤城を守り貫いたこそドイツに勝つ事が出来たのです。ところがドイツは戦争には二度並も勝ったが謀略には負ける。吾々日本人は昔から直く、正しき、明るき、心を尊んだだけ正直過ぎるので敵の謀略にひつかゝるのであります。又米英はこの謀略の尖に於ては実に巧なもので芝居も大がかりです。国際同盟などが日本商品の南方進出を阻止せんがため少年工の労働禁止を要請すると表面の人道主義の看板を真に受けて即座に賛成して終ラ。支那に於ても英米のため常にしてやられるのであります。最近日本に降服状を發表

しましたか^が世^に此^の日本^の新聞紙が記載^{して}あるものな^らば^も敵

め^には^かつて^ある^ので^す。戦^つて^ある^敵が^なん^と云^つて^来や^う

が^そん^な事^を考^へる^必要^はな^い。然^しこ^の時^局に^於て^も軍^需品^の

闇^をや^つて^利得^をせ^んと^する^者が^あり^ます。闇^にも^國難^は乗^り切

る^に國^民の^病と^なつ^てあ^りま^す。利^潤に^國境^をこ^えて^利潤^の

自由^を叫^ぶ英^米資本^{主義}の^謀略^は之^の本^実に^愧る^べき^ので^す

ます。英^國政^府自^ら日^本は^常に^薄介^石と^日本^の敵^とを^いひ

の^背後^の英^國を^打倒^すべ^きと^主張^する^も日^本人^の資^本家^が英

蘭^銀行^に預^金を^する^資本^家を^將入^石に^貸した^の。打^倒す^べき^は

日^本人^自ら^はな^いか^と諺^言した^とも^なま^す。全^く日^本人^の財^界

然^らず^も得^ない。全^て利^潤が^唯一^の自^的な^事業^には^社會

も^なら^ず國^家も^ない。全^く斯^の資^本家^を師^と心^の虫^とす

る。大^政商^人關^西人^の余^り

香いから名を聞くと事久し。真実の保証は出来ませんが大谷光
瑞師が関西実業家の集まる所が大谷に在りては人々
住みよきと在りて餘裕がなると暗に関西実業家の生業を諷刺
した事がある。全一の利潤を目的とする一團に在りて戦争遂行に於
て大障害物があつた。然し今日既に過去の大阪はなかり
があつた。』焦土と化した廃墟の中から新らしき大阪は今將に産
出んとして陣痛の悩みにあるのであります。大阪こそ今後は大東亞
共榮圈交易の中心として新らしき商道のもとに発足しなくてはな
らぬ。今や敵英米は日本を抹殺せんとしてゐるのであります。三千年
の光輝ある一史を根本から覆ふ事としてゐる。吾々一代の戦争でな
く祖先のため又子々孫々のため吾等はこの戦に勝ち抜かなくてはなら
ぬ。全く食ふか食はれるかの戦争であります。琉球に行きますとカラ
スが石の上にとまってるるそうです。そこをハブといふ毒蛇がしのびよつて

ドグロを巻き首を高く上げて下顎で一撃するその瞬間カラスは
 敏速に體を替りて毒蛇は石の上に全身の力を以て我身我頭を
 石の上に叩きつけて粉碎される。その水をカラスは大きく一聲あげて
 友を呼びハブの珍肉を喰るそうです。敵米は恰もこの琉球のハブ
 の如きもので我が勇敢にして沈着なる將兵は今や敵の猛撃に会
 はんとしてみるのであります。この危機一髪に神機を捕促するが皇
 軍の作戦ではないかと思ひます。実に大決戦の寸前に立ちて我
 等はなにをか云はんや。一億體當りを以て敵米英を粉砕すべき
 は今日であります。諸君どうか一際を戦争一本に切り替へてこの
 意義ある聖戦に勝ち抜こうではありませんか。
 最後に勤皇家鈴木重胤の歌をうたつて

天皇の御指となりて死ぬる身の

心は常に樂しかりける

特秘二發第二〇五號

昭和二十年八月六日

大阪府知事新居善太郎
(警察局長)

國柱團並リ八月七日ヨリ
最意昂揚ノ為江蘇法隊
組織實施中

内務大臣安倍源基殿

近畿地方總監安井英二殿

(關係警察署長殿)

國柱團街頭運動ニ関スル件

(對號 特秘二發第二〇五號
昭和二十年八月二日)

大阪市天王寺區眞法院町八八

國柱團總本部

(總務會長 田辺 納)

右團體ニ在リテハ對号既報、如ク緊急幹部會ヲ於テ
決定セル全國突擊隊青年分子ヲ以テ國民士氣昂揚、
辻說法隊ヲ組織シ本月七日ヨリ之ヲ實行ニ移スコト
トシタルヲ以テ今說法要旨ヲ提出セシメ當廳ニ於テ事

前檢閱ヲ施スト共ニ

對ソ外交方針ヲ批判スルガ如キ事項

政府施策ヲ誹謗スルガ如キ事項

軍機ニ屬スル事項

軍官民離間ノ虞アル事項

等、言動無キ様嚴重指導ノ上之ヲ認メタルガ別添

該原稿(株線ハ削除)及辻說法ノ場所等左記、通

有之

右及申(通)報候也

字
日
誌
一
表
人
文
出
數
高

可
追而管下各警察署長ニ在リテハ経緯了知、上
取締上遺憾ナキヲ期セラレベシ

記

辻説法者名

突撃隊總司令

参謀長

参謀

隊員

” ”

二期間

金	今	堀	良	森	村
井	村		原	山	田
秀	忠	賢	正	泰	一
雄	雄	吾	雄	仲	郎

自昭和二十年八月七日
至八月十六日
十日間

(ノ) 今かう千幾百年前日蓮ハ関東の地に於て辻説法を爲し
 時の鎌倉幕府に蒙古來の警告を與へたのであります
 昭和の今日吾々國柱團同志ハ斯の如く將に街頭に立
 ちて辻説法をやらんとして居るのであります勿論あり
 當時二十万の蒙古軍が博多灣ニ侵攻した事は確に
 一大國難であつたに遠ひないが然し今日は敵米英は
 空に海に陸に我が本土を襲はんとして居る否空と海
 とは爆撃艦砲射撃等に天日夜我々を悩まして居る
 全く残されたるは陸のみにて之とも何時何處に敵は
 上陸するかも知れない、今や日本人一億の心は此の敵の上
 陸と言ふ一事に可成の神経を集注して居るのであり
 ます斯る重大危局に起ちて吾等は何を言はんとするか
 夫れは思想戰の緊迫化であります

古今東西を通じて戦争に於て戦意を失はざれば必ず
勝つのであります

(2) 盟邦ドイツは戦に負けただけでなく戦意を失ったのであり
ます。あれ迄ヒットラー大統領が最後の一兵まで戦ふ様激
勵したにも不拘戦意を失って一戦線に於ける百萬の兵が
武器を捨てたのであります

ドイツの断末魔は實に哀れであります。日本人には
全く其の最後の態度に至っては解釈に苦しむのであ
ります。然しもうドイツには國內に於てあの總統の
遭難頃より親英派の活動が旺人にして英國からまん
まと引掛られたのであります。恐るべし。敵の謀略であ
る。武力に勝つていてもドイツは二度逆の謀略の爲國を
亡ぼしたのであります。

英米は殊に思想宣傳の点に於ては遙に巧で到底日本人の及ぶ處にありませぬ最近空からの思想戦で旺んにビラを撒いて居ます、斯んな馬鹿らしい手に乗るものかと思ひながらついで

(3) 先方の手にまんまと引掛るのであります戦争が我々に不利な場合たとへば敵の謀略に陥り易い。先日は福澤諭吉、尾崎學堂等の意見を切貫いて『自由』を擁護してゐました、勿論吾々はいはるらの先輩が傳へた文明開化に大に災せられてゐる。恐らく明治より大正、昭和と引續いて米國が日本にとつた謀略戦術には實に戦慄すべきものがあります。所謂三エス主義映画、競技、風俗之等の三つを介して日本を墮落せしめる敵の謀略、男女同權サテハ産兒制限は持出して時の内務省はサンガー夫人の講演を許したのではありません。日本でも子室と申しますが西洋は夫婦主義で澤山な子持は家庭の平和を破ると言ふ個人主義思想から出

發して居るのであります。此の恐るべき思想を以つて日本の親子主義の家庭を根本から覆さんとしたのであります。

(4) ホーリウツドを「聖林」と譯し映画俳優を女神の如く慕つて日本の青年男女を隨處にせしめ彼等の流行を真似て國民にダンス横行し男女の風紀を乱したのであります。學生は野球蹴球等が殆んど勉強する時を持たない。全く滿洲事變の起る年頃迄は世を羨望して英米化し銀座街頭、心齋橋に暫し足を留めなば、之等は恰も米國の植民地の如き觀を呈して居たのであります。斯る敵謀略には全く温床の地である社會に我々は生きて居たのであるから思想戦には重大意義を持つてあります。西洋崇拜も日本人は正直だから危険千万です。例へば商業學校のマークに蛇の巻いたギリシヤの商神のマークがありますが、あの商神は実は泥棒の神様であります。日本國中可なり之のマークの商業

269
學校が多つと思ふ事、茲に至つては西洋崇拜もこつけいであります。私共は今日過去を振り返へれば種々よこしまな道を歩いて来たのでありますが、過去は過去に葬り去つて眼前の問題を考へてはならぬ。実に日本人は堂々たるもので戦場に於ける將軍の態度は外國のそれと比較して問題にならぬ。先日も沖繩で牛島大將は辞世の歌に

秋待たで枯れゆく島の青草は

皇國の空によみがえらなむ

と歌は水ました。死の寸前、詩を作るとか、一歌さうたふ、この境地は到底欧米人には理解出来ないのであります。

天皇に一切を捧

げまつるその心境こそ神に近いものであります。我々が敵英米撃滅に一切を捧げる時そこに神機が倒来するのてあります。神風は決して棚からホタ餅式で落ちて来るのてはない。億火玉と茶うて

敵粉碎に挺身するその息吹が神風となつて吹いて来るのであり
ます。私共は長い時間、理屈をいふ時を持ちません。聴衆の皆さん
どうか足もとを気を付けて、不平や、不足を云つてゐるといつ謀略の
あの手、この手にひつかゝるか知りません。

神國不滅の大信念のもとに一億总体當りを以つて必勝の目標に
向つて猛進させよう。國柱団は最近発足して凡ゆる面に於て決戦
行動を取り度いと思ひます。皆さん、内吾々を一脈を通じて憂國の
血湧き肉踊る方が御座居ましたら是非即時御入會を希望致
します。

平
日
日
誌
敵
我
入
攻
出
敵
電

一大型、小型、取交って日夜の別なく日本全土を空襲してゐ
 ます。これは次の決戦段階に對する索制の意味で神経戦
 が可なり手傳つてゐます。もう吾々の神経も可成太くなりまし
 た。斯くまで災害を受け、悠々自適焦土にかぼちやでも作
 って居る、なんと素晴らしい神経でもありませんか。日本人はいざと
 いふ場合になると達観するのであります。

この心構えがあつてこそよく貪苦耐乏が出来るのであります。
 然し我々は決して思想戦には油断はならぬ。ナチスドイツの
 最後を見て私共が武力に勝つても謀略のため國は亡ぶもの
 だと感じたのであります。戦争が熾烈になるれば食糧問題が深
 刻化する。そこに國民の厭戦思想の温床が出来るのであります。
 昔から戦に腹が減つてはともならぬと申しますが、兵士の生命
 を積極的にに守るは銃、消極的に養ふは食糧であります。敵が

上法作戰すれば食糧は一層の緊迫を告げるかも知れません。
斯る時應風の如く流言蜚語が乱舞するのではありません。先の欧
洲戦争に於て帝政ロシアを内部崩壊せしめた、スターリンと其
一党はよくその呼吸を知つてゐるのでモスコが落城の一步前
まで来て少しも乱れる事なく市民がよく艱難辛苦孤城を守り
貫いたこそドイツに勝つ事が出来たのです。ところがドイツは戦
争には二度迄も勝つたが謀略には負ける。吾々日本人は昔から
直く、正しき、明るき、心を尊んだだけ正直過ぎるので敵の謀略に
ひつかゝるのであります。又米英はこの謀略の点に於ては実に巧な
もので芝居も大がかりです。国際聯盟などが日本商品の南方進出
を阻止せんがため少年五の勞働禁止を要請すると表面の人道主
義の看板を眞に受けて即座に賛成して終う。支那に於ても英
米のため常にしてやられるのであります。『最近日本に降服状を發表

しました。が、世に日本新聞紙が記載するものは、

「戦つてゐる敵がなんと云つて来やう

がそんな事を考へる必要はない。然しこの時局に於ても軍需品

の闇をやつて利得をせんとする者があります。闇こそ國難を乗り切

るに國民の病となつてゐるのであります。利潤は國境をこえて利潤の

自由を叫ぶ英米資本主義の謀略は之も實に惚るべきものであ

ります。英國政府は日本は常に蔣介石は日本の敵でない

の背後の英國を打倒する主張するも日本人の資本家が英

蘭銀行に預金をする資本家を蔣介石に貸したのを打倒すべきは

日本人自らすべきことと驕言をなすも日本人の資本家は未

然とせざるを得ない。金持は利潤が唯一の目的です。社会

主義は國家をなす。金の斯る資本家を飾る心の虫です。

大波は備前高都に存在し、大波商人、関西人の余り

番の事名を聞かす事久し。眞実の保証は出来きせんが大谷光
瑞師が関西実業家の臣類の集れる席に大阪はゆきダマ人は
住まきせん。住む餘裕がなると暗に関西実業家の業を練する諷刺
をまきせん。全くこの利潤を目的とする一團は出来た戦争遂行に於
て大障害物があります。然し今日に於て既に過去の大阪はなかり
がすすす。『焦土と化した廃墟の中から新らしき大阪は今將に産
出んとして陣痛の悩みにあるのであります。大阪こそ今後は大東亞
共榮圈交易の中心として新らしき商道のもとに発足しなくてはな
らぬ。今や敵英米は日本を抹殺せんとしてゐるのであります。三千年
の光輝ある一史を根本から覆えんとしてゐる。吾々一代の戦争でな
らぬ。祖先のため又子々孫々のため吾等は此の戦に勝ち抜かなくてはな
らぬ。全く食ふか食はれるかの戦争であります。琉球に行きますとカラ
スが石の上にとまってるるそうです。そこをハブといふ毒蛇がしのびよつて

ドグロを巻き首を高く上げて下顎で一撃するその瞬間カラスは
 敏速に體を替りて毒蛇は石の上に全身の力を以て我身我頭を
 石の上に叩きつけて粉碎される。それカラスは大きく一聲あげて
 友を呼びハブの珍肉を喰るそうぞす。敵米は恰もこの琉球のハブ
 の如きもので我が勇敢にして沈着なる將兵は今や敵の猛撃に会
 はんとしてゐるのであります。この危機一髪に神機を捕促するが皇
 軍の作戦ではないかと思ひます。実に大決戦の寸前に立ちて我
 等はなにさか云はんや。一億體當りさ以て敵米英を粉摧すべき
 は今日であります。諸君どうか一際を戦争一本に切り替へてこの
 意義ある聖戦に勝ち抜こうではありませんか。

最後に勤皇家鈴木重胤の歌をうたつて

天皇の御楯となりて死ぬる身の

心は常に樂しかりける

特秘ニ發為ニスル

昭和二十年八月六日

いのち棒が運動新聞

内務大臣 安倍源基殿
大阪府知事 新居善太郎

警視總監 町村金五殿

大日本必勝不敗聯盟、新聞紙

宣傳運動ニ関スル件

客月二十七八日両日ニ亘リ管下

大阪毎日新聞社

大阪新聞社

西新聞社朝刊裏面廣告欄ニ別添
「いのち棒が運動」云々

天日本必勝不敗聯盟

ト題シ掲載シタルヲ以テ該廣告申込責任者ヲ
内偵スルニ右ハ

東京都京橋區槓町三丁目五地

日本富士水力機械製作所

取締役社長 山岸儀一

ト判明セルが貴廳ニ在リテハ聯盟ノ實體並ニ關
西方面ニ於ケル連絡關係ニ就キ狀況内查ノ上何分
ノ御回報相煩度
右及申(通)報候也

昭和二十一年八月十一日

方改存特許第一課長

事務官

保安課長

文書 檄文 點布 二箇之件

本朝早朝改急電鉄ホーシノ爆風ニ付ニ幅二尺横

二尺五寸ノ白紙ニ小學生ノ書方平筆ノ字ヨリ稍

大ナル文字ニテ相中ノ血墨ヲ以テ大改檄ニ枚

ヲ點布シマシヨリ葉見ニ目下點布者捜査中

既長ヨリ届出アリ

ナシカ檄文中ニ方改理工科大學予科ト

出頭回出本日

了了 該科科ハ二科、大學(單科)ニシテ元日本

大學方設專門學校ナシカ、手授ニハ神州不滅ヲ信

シ始我國雲霧、愛國運動史ヲ著シ讀ニ在リ

ヲ以十五、六名ノ學生アリ、在學中、ナリニモ一ニシテ

該學生、所ナト認メテ

取

概

内務省

妻の可き好ハ業ヲ男子ヨ女子ヨ断乎トシテ
 戦フノミ、今コソ總テヲ離レヨ、知テ親也
 生死也、而シテ戦ハ、甚界カ何知、神州
 日本ハ超然トシテ蕭古ニ従事スル

方波理工科大學豫科

尚ユ一外一者總體橋野ホーウニニ血書一

撤文點本ニアリタリト一筆中一ニ一檢査中一

内務省

昭和二十一年八月十一日

大坂府特高第一課

保安課長

事務官

血書徴文ニ付シテ

理工科大學豫科名ノ改定取ニ照布セシ標記撥

文ニ付テハ電話既報ノ通りナシカニ鶴橋駅ニ照布

セシ又ノ友記ノ通りニシテ目下張込等ヲ完竣シ

権限ノ努力中ナリ

記

内務省

一用紙 阪急驛ノモノト同様

檄

理工大、神風連

正三三四年ノ足跡ハ消エントシテ本ハ一億令ニ
シテ起々トシテハ、

壯年ヨ反者セヨ、婦女ヨ寸刻ニ偷安ヲ貪ム
勿レ、断々乎トシテ戰ニ直面セヨ 理工大科生

内務省

尚七撥文ノ外、天満屋前、勘科送、壽前、街路

ニ白墨ニテ血書ト同様、大キサ、文字ニテ

大和民族最後決戦員ケテ、奴隷トテヨリ又

妻子ヤ娘ヲ奴等ノ妾辱ニマカセヨリ又一億

(殊ニ奮闘) 最後ノ一頁トテ、迄戦ヒ抜ケ

消スナリ

トノ概文ヲ書付ケ、了んヲ察見、撥文同様、捜査中

(特許五二二二) 警察規定圖 (上下折)

昭和二十一年一月十五日

方海府特高課

保安課

事務官

血書撥文 捜査ノ状況

電話概報ノ標記事件ノ為物一見(通)方海

工科大学理科学生ノ事判明(目下)

高合部 中比 藤井某

園田某 田中某

ノ引致(目下)ノ状況ハ

大日本帝國政府

竣工拜二年 地島一親が本月十五日中部一書二十二

部字之懸置るる及善合志朗等友人等十名の地島

市二於て合人一送り合ヲ綴りしが高津中學校身

一、徳合等ハ合持在学中、血者癖アリ合持教諭

一、威化ヲ受ケたり送り合ハ席上酒ノ勢ニ乗じ

廿縣縣考戰ハ刺戟ヲ受ケ概文ノ血者ヲ及之ハ

夕申合シ其一坊ニ送テ以總合外田名ハ夫々十指

昭和二十年八月十六日

市役所特高課

保安課長

了事務官

市大詔牌茶袋一箱山女状吃

市大詔一市一燠茶一一般大衆ニハ全ク予想外一幸

トテ早中然トシテ急急私部沈シ居ル状及ナリ

男女工多ハ淡ニ眼ヲハスシツ、得定七、果所内会

儀一烈ニ在リテハ三々五々集令七今後一材公案ヲ

協議シ、之等ニ在リテハ今後一生産ヲ継続スルヤ

日正司出下日下

連絡
内閣
連絡
内閣
連絡
内閣

昭和二十一年八月二日

總監府

保安課長 事務官

警保局長 了 兵陣 總事項

一 般治安狀況 特異事象ナシ

二 本道内行場 駐屯部隊 無秩序トナリ

三 本道内朝鮮人 之分布 取セヨクヤリ 疑了リ目

下調査ニ付 甚クハ 概採中ナリ

三 海軍航空部隊 一部ニ 於テ 戦争 継続方ニ 概

大日本帝國政府

文ヲ神戸市内外ニ散布(十九日) 揚子(十七日) 揚子(十七日) 揚子(十七日)

四、神戸市中内牧場中、修養(昭野) 昭野(昭野) 昭野(昭野)

昨夜集団ヲ組ミ自由外出、上埠頭倉庫ヲ

在庫品ヲ擄奪セル事案了リ、手朝ハ全員

復帰シ且下平聲トナシ(英米河ハナシ)

昭和二十年八月二十日

道畿總監府

保安課長 事務官

軍人海軍事件

警保局長

本月十日中部軍管区司令部、樋口大尉、大野

少尉、伴に家族疎開先として京都府相樂郡

下東マシガン嶺山事務所に至り、陸工夫頭高

岡某ハ

敢死隊特攻、敢死隊特攻三名、登山に赴き、千反嶺

大日本帝國政府

ヲ翻一カハサントス

等ト海軍シキムヲ以テ憤激シ、軍力ヲ以テ斬リ

控テレトシタムモ、高岡ハ外イナマイトニ祭ヲ燬テ

セシ外ハ山上山中ニ遊走シ十九日午後九時ニ至ルニ逮捕

ニ至ラス、

京都府ニツキ調査セシタタム所、相當飲酒一上

一即存入スルハ如ク

事件二因七路十之六軍司一總監府其二對之真

同達押方申込之了り之んか、京却一府ト又忠路

ト上領之奉事故トしテ、諸着自セシムルノ努力中ナリ

293

特秘二發號外

昭和二十年九月八日

事務官了

大阪府知事 新居善太郎

警保局保安課長殿

老疑、案、七

新潟縣警察部長殿

休戰後ニ於テハ應召軍人ノ容疑

行動ニ関スル件

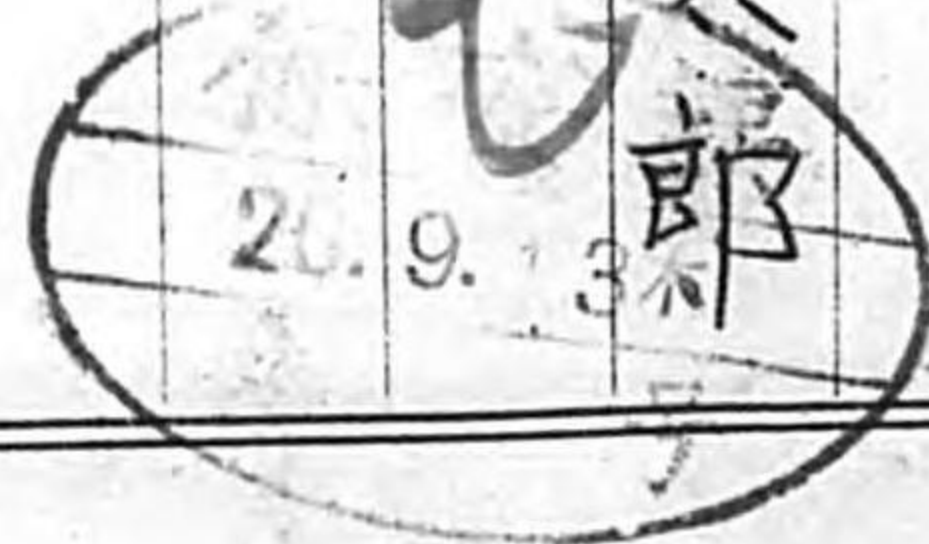
本籍 新潟縣西頸城郡能生町ニ九八五地

少主源太郎長男

一補一等兵 楠木忠一

當二十七年

昭和二十年九月一日 新潟縣(貴縣)ヨリ特高秘思三号



外ヲ以テ照會ニ係ル右者ニ對スル首題、件全人在隊
部隊其他ニ就キ調査スルニ左記、通ニ有之
右及申(通)報候也

記

一、部隊所在地及所屬部隊名

大阪府中河内郡柏原町宇高井田

天鷲第一〇四一部隊夕號演習部隊

二、應召期間 (四箇月半)

應召昭和二十年四月十五日(右部隊ニ配屬サレタル八育十日)

召集解除 〃 八月三十一日

三、應召中ニ於ケル本人ノ動向

(一) 服務ノ狀況

普通ナルモ積極性乏シク多少急遽感サヘ見受ケラ
ル一等兵進級ニ際シテモ最左翼ニテ進級セルモノ、如ク
(2) 性質及智能ノ程度

遲鈍ニシテ明朗性、感受性極メテ乏シク常識批
判力ニ缺ケ余リ聰明ナラザル方

(3) 交際ノ状況

在隊中一度モ面會人等無ク亦書面ニ依ル交際狀
況モ(妻ヨリヲ除ク)殆ド皆無ク模様ナリ

受發書面ノ檢閲ヲ毎回実施セルモ思想的動向全
ク認メラレズ(横江中尉談)

(4) 召集解除前後ニ於ケル状況

解除前ナルニ十二日、長以下一四〇名ノ部隊全員ニ

對シ被服食糧其、他、物品ヲ非常配給シ今日鉄道輸送ノ方法ヲ以テ各個人ノ家ニ送ラシメタリ

八月三十日解除當日ハ主トシテ兵員ハ関東方面出身ナルヲ以テ方面別ニ纏メテ長ヲ付シ其ノ方面ニ到達スル迄団体的行動ヲ實施セシメタリ本名楠木忠一モ今日因体ニ引率サレ部隊所在地ヲ出發シタル事實相違ナシ

當日ハ全員互ヒニ喜ビ合ヒ出發セルモノ、如シ

四、其他參考トナルベキ事項

ハ八月十五日降伏發表後ニ於ケル隊内ノ情勢ハ上下ヲ擧ゲテ憤激ナシタル模様ナルが特ニ八月二十日前後（本名投函ノ頃）ニ於テハ航空參謀等ノ訓示アリテ

295
隊内ハ一層ノ憤激状態ニアリ

本名モ其一員トシテ熱シタル儘妻女宛投函セルモノハ
如ク思料セララル妻女宛書面ノ差出シタル當時ハ召集解
除未定ノ頃トテ本名ニアリテハ此處當分ハ解除ナキモノト
独考シ隊内ノ雰囲気ト敵ノ本土上陸トヲ併セ考ヘテ
書面ノ如キ心情トナリタルモノ、如ク思料セララル

(2) 差出人ハ大阪府中河内郡柏原町字高井田吉川方
本名出トナシ居リタル如クナルモ七口數戸高井田部落全
域ニ付精査ヲ爲シタルモ吉川ナル姓ノ者全ク無クシ架
空的ナル人名ヲ用ヒタルモノト思料セララル

五調査ニ関スル意見

在隊期間短期ナルヲ以テ十分ナル實情ハ判然シ難

キモ本名在隊中ノ動靜概要前記ノ通りニシテ監督
指揮ニ任ジタル横江中尉等ヨリ本名ニ對スル意見ヲ聽
取スルニ言動起居動作交際ノ狀況ノ智能ノ觀ト莫ヨリ
シテ思想動向ニ関シテハ何等容疑ノ莫認メラレズ唯一
時的ノ憤激ヨリ斯クノ如キ書面ヲ差出シタルモノト思料
セラレ遲クトモ九月三日頃ハ本着地ニ歸郷セルモノト認
メラル亦グループ等ノ背後的關係ニ就テモ本名在隊
中ニ於テ出入シタルト思料セラレ附近農家等ニ於テ行
動言動等聽取ナシタルモ何等容疑の背後關係無
シ

警保局長

特秘ニ卷第三六七號

昭和二十年九月八日

保安課長

事務官

大阪府知事

新居善太郎

内務大臣 山崎 巖殿
近畿總監 安井英二殿
関係府縣長官 殿

學生、不穩計画事件ニ関スル件

大詔奉戴後ニ於ケル民心、動向ハ極メテ悪気流ヲ示シ、就中右翼団体、純真學生、青年分子、軍内動向等ハ最メ注目警戒ヲ要スル狀況ニアリ、本省ヨリノ御指示ノ次第モ有之各方面ノ狀況ヲ勘案シ、計画樹立、上視察内偵ヲ強化シ居リタル處也、記、如キ事業案、覚セルガ捕虜受領、恙一部進駐軍(四十名)ハ九月五日新大阪ホテル會館ニ駐留シ更ニ市井ニ捕虜、往來等モ煩繁トナリ狀況急

要話既報ノ詳報

不穩行動ヲ未然トシ



迫セルト認メラレタルヲ以テ直ニ関係者、取調ヲ実施シ善後措置
ヲ講ジタルモノニ有之
右 及申(通)報 候也

一、事件發覺ノ端緒

谷村部長、聞込内偵ニ依ルモノ

八月二十日頃管下中河内郡矢田村所在

官立大阪無線電信講習所

高學年生徒、空氣相当注意ヲ要スル狀況ナリトノ聞込ヲ得其
ノ後學校関係視察係

警部補 吉 沢 重 次
送 査 部長 谷 村 虎 秋
送 査 清水 正 衛

ラシテ極力実体把握、着ノ内偵ヲ進メツ、アリアルル處其後全學
生徒ニ連絡ヲ得九月二日遂ニ今日ヨリ屯記、如キ聞込ヲ得タリ
今里ノ寮ニ居ル九州出身、高學年生徒ノ間ニ近ク進駐軍上陸
シタル場合之等ヲヤツ、ケ自分等モ自決スル、ダト云フ學友ガ數名居

ル

トノ聞込ヲ得タリ

二 捜査ノ状況

(1) 官立無線講習所ハ修業年限三年半ナルモ時局ヲ為シ其ノ年限ヲ一年ニ短縮セルガ生徒ハ其ノ七割並陸海軍ノ委託生徒ニシテ予備生徒トシテ自分ヲ有スル者多ク生徒ノ気風ハ陸海軍學校ニ準ズルモノニシテ配属將校ニ依リ相當規律嚴正ナリ

(2) 八月十五日大講義ヲ行ハシテ復生徒ノ空氣ハ極メテ昂奮状態ニアリ而軍人トシテノ持来ノ希望ヲ失ヒ自暴自棄的風潮ヲ起シ且入校中ノ生徒ノ殆ニトハ九州出身ニシテ矯激ナル感情校内ニ充満セル状況ニアリタリ

(3) 斯ル状況ナリシヲ以テ生徒鎮撫対策打合せノ為メ十七日所長ハ上京シ通信当局ノ指示ヲ受ケ八月十四日帰校全平八日全生徒ニ対シ

授業ハ此ノ儘継続スルガ近ノ繰上ゲ卒業ヲ考ヘテ居ル然シ度業ヲ受ケル氣持ニナレヌ者ハ退所ニテモ良イガ但除籍スルト発表ニナル処七八名ノ退所者ヲ見タリ
其後同所ハ所長以下全カヲ承認少謹、訓育ニ注ギ九月五日繰上

卒業ホスル事ニ決定ニタルコト判明セリ

(4) 管下大阪府生野区新今里四丁目今所今里寮(収容人員四十名)

右寮内ニ九州組、復讐者漢ヲ以テ團結セルグループアルコト明カトナリ

其ノ動向注意中ノ処九月二日前記ノ如キ漢ノミヲ得タルヲ以テ層内

復ヲ強化シツ、アリタルカ九月五日繰上卒業トナリ且捕房長領ノ

為ノ来阪セル関東進駐部隊四名アリ更ニ此ノ漢ヨリ引揚ヲ控へ管

内ヲ彷徨セル捕房長ヲクク此ノ漢放置スルニ於テハ不祥事件ノ発生ヲ

免ル虞メシメテ分ニテ取放ス九月六日早朝ヲ期シ今寮ヨリ

九州組グループヲ行取調ヲ開始シタリ

取調ノ状況

の進行ニシテ生徒

- 大須賀敏夫
- 奥村増徳
- 平松正春
- 梅野芳則
- 工藤信雄
- 河瀬貞澄
- 堂田剛秋

ノ七名ニシテ同志中橋本五郎、藤田元男、田部某ノ三名ハ既ニ卒業
当日帰郷ニ居リタリ

(2) 連行者ハ即時取調ヲ開始ニタル処極メテ純真卒業ニシテ何レモ
左記ノ如キ事実ヲ自供セリ

達ハ中學卒業或ハ五年在学中ト将来陸海軍々々タルコトヲ
 希望シ官立無線ニ入所シ陸軍予備生徒或ハ海軍委託生徒トシテ
 一モ早ク學業ヲ終リ第一線ニ活躍シタイ希望言有シテ居リ
 マシタソ聯、参戰發表ト共ニ私達、氣持ハ矢猛ニ逸リ所長
 先生ニ出陣ヲ出願シタヤウナ次第デアリマシタケ八月十五日重大
 発表カアルト言フ、デ吾々ハソ聯へ、参戰發表ケト決意シテ居リ
 マシタ也重大発表ハ吾々、予想ト全ク逆、御聖旨デアリマシタ、
 私達ハ學友相擁シテ悲憤、血涙ニ咽ビ呆然自失、態デアリマシ
 タ其、後授業ヲ受ケル氣持ニ元ナレズ笑顔等ヲスル者ヲ見シ
 バ敵リツケタイ氣持ガ吾々同志ノ中ニ屈ク流シ陰惨ナ裡ニ數
 日ヲ過シタガ吾々九州組ノリーダー格デアル大須敏次ガ常ニ
 同僚ニ云ツテ居ツタコトハ

「十九オ、今日迄最前ニ行ケナカッタノハ残念デ斯ニテ事ニ
 ナルノダツタラ早ク戦地ニ行キ
 天皇陛下ノ御為ニ死スベキデアツタ
 ト云フ氣持ハ全時ニ吾々同志ニ言ハズ語ラズ流レテ居ツク偽ラサル

氣持アリマス、私達ハ察ニ居テモ、吾等モセズブラノトミテ居ツ
タテ原上同志ハ自然ニ集リ日本ノ現状ニ世界ノ大勢ノ戦争終
結ノ原因ホツタム宣言並ニ之ニ伴フ聯合軍ノ進駐其ノ際ニ
於ケル國內ノ混乱其、他吾々ノ氣持等ニ就テ再三協議或ハ

議論ヲ闘ハシマシタガ其ノ結論トシテ結局

俺等モ九州男子ガカラ敵軍ガ上陸シテ来タラ三人ヤ四人

ハヤツツケラレルト思フカラオ互ニ之ヲ実行シテ自決スレ

バ吾々ノ本懐ガ違セラレルノカシ
ト論ジ其ノ場ニ於テ各々指テ切り

六死一番

大義
闘魂
七生報國

等ノ血書ヲ察ノ襖ヤ壁ニ張シテ次第デアリマスガ其ノ具体的手
段ヲ法等ヲ怎ウスルカト云フ協議実行等ハ致シテ居リマセヌ